



「子どものとも 世界昔ばなしの旅セット」

(福音館書店、第一弾、2024年4月刊行)

11 NOV
2025

「昔話」は、広く世界の隅々で生きる人たちが、そこで生まれ語り伝えられてきた「物語」です。

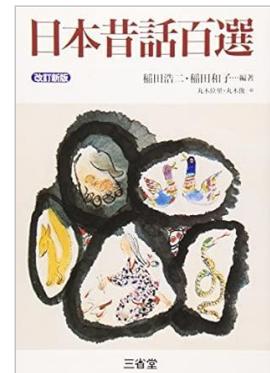
「昔話」で、広く知られているのが「グリムの童話」です。日本の場合も隅々で生きる人たちが、そこで生まれ語り伝えてきた物語がいっぱいあり、その代表的なものを集めた一冊が「**日本昔話百選**」(編集:稻田浩二、稻田和子／三省堂、2003年)です。

昔話は、前述のように、古い時代から「そこで生まれ語り伝えられてきた」物語で、文字化されるのは、ずっと後のことと、「昔話絵本」となると、更にずっと後のことです。

昔話の誕生は、人間が集団・家族を営むようになり、その共同生活の「くつろいだりする」時間が生まれた時、積み重ねてきた生活、その時の言葉の交わし合いの中で、小さな物語が生まれ、時にそれがふくらんで、少しずつ起承転結のある、いわゆる物語・昔話になったのだと考えられます。

「狩り」をする人たちだったら、その時の様子を身ぶり手ぶりで、更にその上手・下手が断片的な言葉になり、言葉に起承転結があって、そして物語になったりしたのだと考えられます。

それが、おもしろくって、人から人へ伝えられていった時、その展開が更に少しづ



つぶくらんでいったものを「聞き取って」「記録」したのが、前述のグリム昔話や、日本昔話百選だったりします。

それが、世界の隅々で生きる人たちのそこで生まれたのは、どこであれ例外なく、そこに人間の営みがあったからです。

そして、昔話の多くが、人間以外の生きものとの交流、時には言葉の交わし合い、「変身」「交換」であったりするのは、「人間は生きものであり、自然の一部である」という、「事実」がそれを可能にしたし、変身も交換も全く自然なことでもあったのです。

福音館書店の「世界の昔話」も、第一集・15冊「子どものとも 世界昔ばなしの旅セット」は、そんな昔ばなしを世界から集めた絵本で、以下のような構成になっており、こうどうぶんこにも並んでいて、ぶんこの日に、少しずつ読み聞かせも始めています。

「おひさまを ほしがった ハヌマン」 インドの大昔の物語「ラーマーヤナ」より

「おどりトラ」 韓国・朝鮮の昔話

「かものむすめ」 ウクライナの昔話

「もどってきた ガバタばん」 エチオピアのお話

「チャマコとみつあみのうま」 メキシコ・ミステカ族のお話

「われた たまご」 フィリピン民話

「おにより つよい おれまーい」 サトワヌ島民話

「マリアとコンドル」 ペルーの民話

「ちいさなりょうし タギカーク」 アジア・エスキモーの昔話

「まじょのひ」 パプアニューギニアの昔話

「しろいむすめマニ」 アマゾン・インディオのお話

「カガカガ」 北米先住民の創世神話

「かたつむりとさる」 ラオス・モン族の民話

「あくまのおよめさん」 ネパールの民話

「ゆうかんなアジク」 中国満族の民話

「子どものとも 世界昔ばなしの旅IIセット」
2025年4月刊行の第二弾は、アジア・オセアニア・北南米・アフリカ

第三弾は、2026年4月刊行予定！



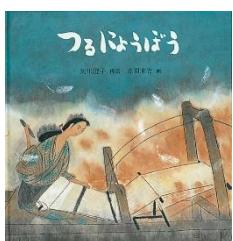


その一冊、「ちいさなりょうし タギカーク」(再話：松谷さやか、ウラジーミル グロツェル、ゲンナージー スネギリヨフ、画：高頭 祥八／1997年) は、「アジア・エスキモーの昔話」です。自然の厳しさとその残酷さは、タギカークの家族から、働き手のお父さんを奪ってしまいます。一人一人が、ぎりぎりの生活を強いられる自然の中で、だからと言って誰かが簡単に手を貸してくれるということではなく、タギカークとお母さんは、命をしのぐだけの食いものしか得られません。

でも「昔話」は、そこでも必ず生きる少年に「働き手」を用意します。「生きもの」である自然は、どこかで、生きものである人間に、手を差しのべなくはない、そんな昔話が「ちいさなりょうし タギカーク」です。



そのうちの1冊、ウクライナの昔話「かものむすめ」(再話・画：オリガ・ヤクトーヴィチ、訳：松谷 さやか／1997年) は、日本の昔話「つるにようぼう」(再話：矢川澄子、画：赤羽末吉／福音館書店、1979年) と、物語としては良く似ています。



子どもに恵まれない、おじいさんとおばあさんが、きのこがりに行って、傷ついたかもを見つけます。そのかもを連れ帰って、世話をした二人の貧しい生活が、一変します。二人が「留守」にしている間に、人間に変身したかもの娘が家の仕事を全部引き受け、二人の生活はとても豊かなものになりました。その「不思議」を知りたい二人は、結局それを見てしまうことになり、その結果、三人の生活は終わりになります。優しさ、真心は決して無意味ではないこと、しかし、現実はあくまでも現実であることを、昔話は人間に突き付けずにはおかないのです。

でも、昔話は、そんな現実・事実を、人間をして語らしめるのです。語らしめずにはおかないので、その意味では、昔話は、人間という生きものの、したたかさをくみ取る、そんな力を持っていると、言えるように思えます。



絵本とともに



～絵本とともに、子どもと歩む日々～

絵本で世界を知ることができる。感じることができる。絵本には、こんな力もあることを、子どもたちに読み聞かせをして感じていました。その地に住む人々のこと。その地の歴史のこと。その地にしかない自然のこと、文化のこと…

「子どものとも 世界昔ばなしの旅セット1」より、インドとパプアニューギニアのお話をご紹介します。福音館の月刊絵本「子どものとも」は、2026年4月で創刊70周年を迎えます。

「おひさまをほしがったハヌマン」インド

(著・画: A.ラマチャンドラン、訳: 松居直/福音館書店、1997年)



ハヌマンは、風の神ワーユの息子。ハヌマンが子どものころ、きらきら輝くおひさまに心奪われ「あれがほしい。あのすばらしいものでそびたい」と思いました。そして、おひさまに近づこうとするのですが、困ったおひさまは姿を隠してしまいます。そのことがきっかけで、生き物という生き物は、死に絶えてしまいそうになります。この状況を見た神々の王インドラは…

神々の国、インド。お話のスケールが大きいです！ハヌマンは、おひさまのことをこんな風に思っていました。「おひさまはきらきらかがやいて、とてもおおきくみごとにみえました。」おひさまと遊びたい。おひさまがほしい。だなんて、ハヌマンの発想には、びっくりさせられました。さすが神の子、ハヌマンです。

絵本に描かれているおひさまは、まるで曼荼羅模様のようです。幾何学的な模様と、鮮やかな色遣いからも、インド特有の雰囲気が伝わってきます。

インドには、「ラーマーヤナ」という叙事詩があり、その中に、ハヌマンが登場するお話が書かれているそうです。試しに図書館で「新訳ラーマーヤナ」を借りてみたのですが、たくさんの神様が登場して結構な読みごたえが、というか私には難しく…絵本という形で、分かりやすくお話を伝えてくれているのが嬉しいです。

「まじょのひ」パプアニューギニア

(再話：大塚勇三、画：渡辺章人／福音館書店、1997年)

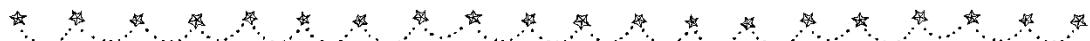


この物語で、火をもっていたのは山に住んでいる魔女たちだけで、海の方の村人たちは火をもっていません。村人たちは、火がないので、食べるものを煮たり焼いたりできなし、寒い夜には震えていなければなりません。そこで、村人たちは、動物たちに「なんとかして魔女たちの火をもってきておくれ」と頼みます。

たった一つの火種を求めて、この物語は展開されます。生まれたその瞬間から、蛇口をひねれば水が出る。ガスや電気を使い温かい物が食べられる。暑い日にはボタン一つで冷房が効く。そんな日本に生まれた子どもたちは、このお話を読んでどう思うのでしょうか。私は、自分たちにとってあたりまえのことがあたりまえでない、そんな時代、そして、地域があること。そして、「火」は、生きるためになくてはならないものだということを、再確認させられました。

動物たちのなぜなぜ話や、民族色溢れたイラストも見逃せません！とくに、全てのページに出てくる縁取りに描かれたイラストを追うだけでも楽しいですよ。

「母の友」(2021年1月号)で、「絵本で世界旅行」という特集を組んでいたのを思い出し読み返してみました。地図を追いながら、アジア・オセアニア→シベリア・ヨーロッパ→中東・アフリカ→南北アメリカと、その国で生まれた絵本の紹介があります。そして、最後には「世界はつながっている」、そんなことを考えることができる興味深い特集でした。



ミニクリスマス会

2025年12月17日（水）16時～16時30分

ぶんこの部屋

参加無料

クリスマスケーキを食べ、絵本の読み聞かせを聞き、クリスマスツリーをつくってお土産を持って帰りましょう！
どうぞどなたでも、お越しください。



今月のつくれて！あそぼう！

芋ようかん

さつまいもは、どう調理しても美味しい。

そこで、簡単「芋ようかん」に挑戦してみよう！

材料は、たったの3つだけ！



「ものづくりハンドブック8」

(著:「たのしい授業」編集委員会/仮説社、2014年) より

材料

さつまいも 中2本 (正味430gぐらい)

砂糖 70g

塩 2g

型 (10cm×15cm) *タッパーやお弁当箱でも、なんでもOK。

作り方

- ① 砂糖と、塩を計量しておく。
- ② さつまいもの皮をむき、適当に輪切りにし、水にさらす。
- ③ 「す一つ」と、竹串が通るまで蒸す。電子レンジでもOK。



④ 蒸しあがったら、熱いうちに、砂糖・塩と一緒に、フードプロセッサーに入れる。
*ない場合は、滑らかになるまで、木べらなどで、ボールで混ぜる。



⑤ 水で濡らした型に、入れる。
⑥ 表面を、平らなもので押し付ける。ラップでピッタリとカバーする。
*重なる型があれば、便利です。



⑦ 粗熱がとれたら、冷蔵庫へ。
⑧ お好みの大きさに切り分けて出来上がり！

お好みで…「芋きんつば」にも出来ます。

出来上がった「芋ようかん」を真四角に切る。小麦粉に水を混ぜ（ホットケーキより少しゆるいくらい）、バットや平皿に入れる。

芋の1面に水溶き小麦粉をつけ、それをホットプレート上に置いて焼く。1面目に、焼き色がついたら、フライ返しで、そっとはがす。次の面も同様にして焼く。それを6回（全面）繰り返せば出来上がり！冷めてもおいしい！

今月のわらべうた

♪ひとつどんぐり

ひとつ どんぐり ひとの顔
ふたつ どんぐり ふぐの顔
みつつ どんぐり みかんの顔
よつつ どんぐり よこ向きの顔
いつつ どんぐり いもの顔
むつつ どんぐり むしの顔
ななつ どんぐり なすの顔
やつつ どんぐり やまの顔
こここのつ どんぐり こぞうの顔
とうで とっても とんまな顔



♪おおさむこさむ

おお さ む こ さ む やまからこぞうが とんできた な んといつて
とんできた さ むいといつて とんできた



♪ 小山のこうさぎ” (佐賀のわらべうた)

こんこん小山のこうさぎは
なぜにお耳がなが長うござる
おっかちゃんのぽっぽにいたときに
ながい木の葉を食べたゆえ
それでお耳が長うござる



こんこん小山のこうさぎは
なぜにお目めがあこ赤うござる
おっかちゃんのぽっぽにいたときに
赤い木の実を食べたゆえ
それでお目めが赤うござる

「おはなしのろうそく 7」(東京子ども図書館編) より

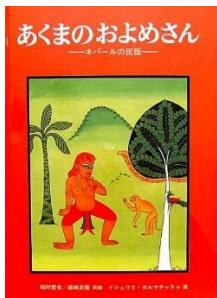


こうどうぶんこの児童文学 (教会学校文庫)

～みんなにたくさんの本を楽しんでもらいたいから～

「あくまのおよめさん」ネパール

(再話：稻村哲也・結城史隆、画：イシュワリ・カルマチャリヤ／福音館書店、1997年)



小樽では北海道新幹線の「新小樽駅」の建設が進められており、建設に関わる沢山の人々が小樽に滞在しています。トンネルを掘っているという方とお話をする機会があり、7人のネパール人と一つのチームとなって寝食共にしながら仕事をしているとか。そんなきっかけから、今回「ネパール」の昔話を選んだのですが、とても素晴らしいネワール族の伝統的絵画と、国の宗教観を感じる物語に、新しい刺激を受けました！！特に感激したのは細かな輪郭線と均整のとれた建物の画です。描かれる山々はヒマラヤ山脈でしょう。木々の葉一枚一枚からもその国の文化や宗教の特徴を感じ、登場人物の顔の模様（ティカと呼ばれるヒンドゥー教の文化に根差した印）、着物、目に映るもの全てに興味を搔き立てられます。人物や動物の表情が独特で、タイトルにある「あくま」に至っては、私の想像する「あくま」からは掛け離れています。一読して興奮冷めやらず、すぐに二巡目に入りました。前置きが長くなりましたが、物語は…。貧しい生活をする主人公ラージャと両親。ラージャが偶然拾った銀貨で、両親は羊を買いなさい！豆を買いなさい！とあれこれ言うのですが、当の本人は世界につしかないものを買うんだ！と心に決めて…買ったのは生まれて初めて見た猿。その猿が、昔から村に住む悪い悪魔を巧みな知恵で退治するのですが、その方法がとってもユーモラスで笑えるんです。猿は悪魔から宝をかすめ取り、主人公一家をお金持ちにします。さらに木彫りの人形を本物のお嫁さんだと偽り悪魔に引き渡す。猿の策略にはまった悪魔は、お嫁さんが死んでしまったと悲しみ、悲哀の心を知った悪魔は二度と悪さをしなくなる…。なんだか悪魔のことを憎めない、そんなラストが個人的には大好きです！ネパールの空気や香りまで漂ってきそうな一冊！ぜひ旅してみてください！

こうどうぶんこによるこそ

「こうどうぶんこ」は、およそ 50 年前、石井桃子の「子どもの図書館」（著：石井桃子／岩波書店、1965 年）に促されるように、教会礼拝堂の隅っこに 2 本の本棚に絵本を並べて始まりました。

始めてみて、何よりも驚いたのは、読み聞かせする大人と絵本に、いわば「我を忘れて」向かってることでした。子どもは、絵本・本が大好きなのです。



「こうどうぶんこ」は、「絵本・本好き」の子どもたちの力で続けてきました。

「こうどうぶんこ」によるこそ！

「こうどうぶんこ」は、集まつくる子どもたちの絵本と児童文学の「お部屋」です。

1、会員になってください

「こうどうぶんこ」の会員になってください。登録だけで、入会金・会費は不要です。2025 年毎週水曜日（不定期で、お休みの時もあります）。

借りるのも、返すのも、午後 3 時～4 時 45 分まで。

2、ぶんこの部屋

「こうどうぶんこ」は、絵本の貸し出し（読み聞かせ）、朗読、わらべうた（マザーグース）、なぞなぞなど、言葉であそぶ時間です。

3、一度に借りられる冊数

1 人につき 5 冊まで。

4、貸出期間

2 週間

5、利用登録

本を借りられる方は、お名前、住所、連絡先などの登録をしてください。

6、お問合せ

〒662-0834 西宮市南昭和町 10-22

西宮公同幼稚園内 こうどうぶんこ

TEL : 0798-67-4691

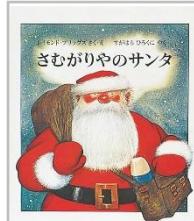
FAX : 0798-63-4044

MAIL : koudou@gamma.ocn.ne.jp





こうどうぶんこ



日時：毎週水曜日 15時～16時45分

*祝日は、休み。また不定期でお休みすることがあります。

場所：ぶんこの部屋（西宮公同教会付属 西宮公同幼稚園）

December 12 2025

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

January 1 2026

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12 成人の日	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

編集後記

私たちが編集・発行しています。ご意見や感想、お聞きになりたいことがありましたらお声かけください。

菅澤・濱・田場・金澤